

授業科目	科目概要・形式	配当年次	オンライン参加
生活困窮と自立支援特論	1 単位 15 時間(8 コマ) 講義科目	博士前期 1 年次 後期開講	☑・不可
科目責任者	権 順浩		
担 当 者	権 順浩		
1. 科目のねらい・目標 本授業では、貧困に関する基本的な理論（絶対的貧困、相対的貧困、社会的排除、自由の欠如）を学説史に沿って批判的に検討する。それぞれの理論的視点が現代日本の「生活困窮」の理解と「自立支援」のあり方によつて影響を与えているのかを深く考察する。理論の批判的検討を通して、受講生自身が福祉政策の原理と実践の方向性を論理的に構築できる能力を養うことを目的とする。そのための具体的な目標は、以下のようである。1. 貧困理論の主要潮流（絶対的／相対的／排除／階級）を理解し整理できる。2. 「貧困概念」「貧困定義」「貧困測定」「社会規範」の差異を適切に説明できる。3. 「自由」や「社会参加」を軸に貧困を再概念化できる。4. 現代日本の貧困問題の理論的フレームワークを用いて分析できる。5. 学術研究・政策提言につながる視点・方法を獲得する。			
2. 授業計画・内容 第1回 生活困窮研究の基礎：貧困概念・定義・測定、貧困／格差／不平等の比較、階層論と階級論。 第2回 絶対的貧困理論：ブース・ラウントリーの貧困研究、最低生活保障の源流。 第3回 相対的貧困と社会参加：相対的剥奪、タウンゼント理論、生活扶助基準との接点。 第4回 社会的排除と自立支援：社会的排除／包摂、社会参加権、政策展開の歴史。 第5回 自由の欠如と自立：自己決定・権利保障・Well-being・脱商品化、自立支援の再解釈。 第6回 階級論的貧困理論：資本—賃労働関係、相対的過剰人口、就労支援政策の批判的検討。 第7回 日本の政策分析：理論枠組みを用いて生活困窮者自立支援制度・生活保護を多角的分析。 第8回 研究発表：各自の研究テーマに基づく政策・実践改善提案の発表・討議			
3. 教科書、参考書			
教科書：志賀 信夫（2022）『貧困理論入門—連帯による自由の平等』堀之内出版 参考書：・アマルティア・セン（著）、池本 幸生ほか（訳）（2018）『不平等の再検討—潜在能力と自由』岩波現代文庫 ・ジョン・ロールズ（著）川本 隆史ほか（訳）（2010）『正義論改訂版』紀伊国屋書店 ・トマ・ピケティ（著）山形 浩生ほか（訳）（2014）『21世紀の資本』みすず書房 など			
4. 成績評価方法 授業での報告と討議 50% 最終レポート 50%			
5. 受講要件 特になし。			
6. 社会人学生に対する配慮 受講者と相談した上で、夜間開講、土日開講、夏季集中講義などを検討する。			
7. その他 オンデマンド実施不可			